

1 単元 ○○○○マーケットで買い物をしよう！

2 単元の見込み

- 買い物場面での応答を通して、友達とのやりとりに関心をもつ。
- 種類ごとの物の名前やその様子を表す言葉をたくさん使い、語彙を増やすことができる。
- 金種や計算の仕方を知り、実際の買い物場面を経験する。

3 指導に当たって

本学級の児童は、言語面での困難さのため会話がスムーズに成り立たなかったり、自分から関わろうとしなかったりするため、友達とのコミュニケーションが難しい。また、日常、手助けを受けることが多く、生活経験が限定されがちである。支援学級の遠足で切符購入や買い物をしたが、金種が分からなかったり、予算に合わなかったり、自分で買うことは困難であった。

本単元は、お店という設定で、種類ごとのものの名前や季節感、ものの様子を表す言葉等の語彙を広げることねらいの一つとする。また、お店屋さんごっこを通して実際の買い物場面に慣れると共に、パターン化されたやりとりなので、臆せずやりとりの楽しさを味わうことができると考える。さらに、お金の慣れ、算数で学習したことを生かして実際の買い物の経験を積み構成となっている。

指導に当たっては、リラックスして言葉を発することができるよう、楽しい雰囲気作りを心がける。また、3人の児童はそれぞれ言語発達が異なるので、その段階に合わせた活動内容にする必要がある。そのために、実際の店内の写真や、語彙を増やすための絵カードや言葉絵図鑑等視覚的資料を活用したり、家族への事前のインタビューで調べたり、資料や活動を工夫する。さらに、実際にお店での買い物を計画することで、教室での買い物ごっこでも目的意識をもって練習できるようにする。今後の学習発表会練習会場への公共バスの支払いや特別支援の遠足などの機会に役に立つように、買い物の経験を積み、自信をもたせたい。

4 児童の実態と目標

	実 態	目 標
A	日常会話の中では簡単なやりとりができ、大まかな自分の気持ちや考えを表現することも可能である。学習面では、「書く」「計算する」ことにおいて特に困難が見られるが、読んだり話したりする活動には意欲的に取り組む。生活面では、友達から遅れながら行動したり、周囲の支援を受けたりしながら活動している。母親とよく買い物に行くが自分で買う経験は無い。	○場に応じた言葉遣いや応答をすることができる。 ○種類ごとのものの名前や秋の季節に合った言葉を使うことができる。 ○買い物場面での計算やお金の使い方ができる。
B	注意が逸れやすく言葉の聴き取りの苦手さ、ワーキングメモリの弱さが診断時に指摘されている。他人の感情がわかりにくく、自分の気持ちや状況を言葉で表現することが難しい。独語や唐突で一方的な話しかけが多い。学習面では、「書く」「計算する」は、学年相応の内容が習得できる。生活面では身の回りのことは自分でできるが、集団行動は支援を受けることが多い。買い物の経験はあるが、予算に合わせたことは無い。	○相手に合わせて応答をすることができる。 ○季節に合ったものの特徴やよさを人に伝えることができる。 ○予算に合わせた買い物の計算やお金の使い方ができる。
C	発音が不明瞭で、はっきり言える単語はわずかだが、独自の言い回しやジェスチャーでコミュニケーションをとることができる。ひらがなは1/3程度習得している。1学期の算数の加法減法は、半具体物や指を使って概ね計算できる。身辺自立はできているが、活動には支援が必要である。買い物にはよく行くが、自分で買う経験は無い。	○積極的に会話をし、やりとりを楽しむことができる。 ○種類ごとのものの名前を知り、言ったり書いたりできる。 ○お金の種類が分かる。

5 学習計画（9時間取り扱い） 本時は○

次時	学 習 内 容	評 価 規 準		
		A	B	C
1	1 ○買い物に行くために学習のめあてをもつ	○学習計画が分かり学習のめあてを考えている。	○学習計画が分かり、学習のめあてを考えている	○お店ごっこに興味をもつことができる。
2	2 ○お店屋さんごっこの準備をする。	○ものの名前や様子を表す言葉を使うことができる。	○ものの特徴やよさを人に伝えることができる	○ものの名前を知り真似して発音しひらがなで書ける
3	5 ○お店屋さんごっこをする。	○場に応じた言葉遣いや応答をすることができる。	○相手に合わせて応答をすることができる。	○積極的に会話をし、やりとりを楽しむことができる。
4	7 ○計画を立て、買い物に行く。 8 ○学習のまとめをする	○買い物場面での計算やお金の使い方ができる。	○予算に合わせた買い物の計算やお金の使い方ができる。	○お金の種類が分かる。

6 本時の指導

(1) 目標

ア 全体目標

○ 種類ごとの物の名前やその様子を表す言葉をたくさん使い、語彙を増やすことができる。

イ 個別目標

A ○種類ごとのものの名前や秋の季節感のある言葉を使うことができる。

B ○季節に合った、ものの特徴やよさを人に伝えることができる。

C ○種類ごとのものの名前を知り、真似して発音し、ひらがなで書き表すことができる。

(2) 準備・資料

スーパーマーケットの写真、前時のカード、ことばずかん、絵カード、品名を書くカード、新聞ちらし、家の人へのインタビューカード

(3) 展開

学習活動・内容 (学習形態・時間)	教師の指導・支援と評価 ◎評価			
	全 体	A	B	C
1 はじめのあいさつをする。 (全体・2分)	○元気に声を出して挨拶し学習への切り替えをさせる。	○号令をかけ挨拶ができたことを賞賛し、学習意欲を喚起する。	○声を出して挨拶をさせ、学習への気持ちの切り替えを促す。	○「礼」を声に出して、積極的に学習に取り組めるようにする。
2 ウォーミングアップを行う。 (全体・5分)	○応答型のゲームを行い楽しいやり取りをする。	○はっきりと口を開けるよう言葉かけをする。	○やりとりができたら賞賛し、学習意欲を喚起する。	○よく聞いて、ジェスチャーを使いながら楽しむ。
3 本時の学習活動とめあてを確認する。 ○○○○マーケットのじゅんぴをしよう。 (全体・5分)	○スーパーの写真を掲示し、イメージしやすくする。 ○前時の野菜コーナーを見て、各自のめあてを確かめ、見通しをもたせる。	○○コーナーにたくさん品物をそろえよう。	客が買いたくなるようなちらしを書こう。	○○コーナーのしなものをあつめよう。
4 各自の活動に取り組む。 (個別・20分)	○各自が使うものを準備する。 ○互いの活動が見えるように配置し、思いつかない時には互いに教え合えるようにする。	○実際のスーパーの写真や、言葉図鑑を見て、品物の名称を数多く書き出せるようにする。 ○事前に家の人にはインタビューして調べた旬のものを取り入れさせ、季節感を味わえるようにする。 ◎種類ごとのものの名前や秋の季節感のある言葉を使おうとしている。 (観察、カード)	○昨年の社会科のスーパーマーケット見学を想起し、イメージをつかませる。 ○家の人へのインタビューや新聞広告を参考に、旬のもの・値段・食べ方などの観点から書くよう助言する。 ◎季節に合った、ものの特徴やよさを書こうとしている。 (観察、カード)	○実際のスーパーの写真から分かったものを、絵カードから選ばせる。 ○名前が分からないものについては言葉図鑑で調べて書くよう支援する ○ひらがな表を用い、自分の力で書けるよう援助する ◎ものの名前を集め、言ったり書いたりしている。 (観察、カード)
5 作ったものを発表し合う。 (全体・5分)	○互いの集めた言葉を共有し合う。	○はっきりと発音し、発表できるよう励ます。	○聞き手に向かって話せるように助言する。	○カードを見せながら、自分なりに発声できるよう励ます。
6 本時の活動を振り返り、次時の見通しをもつ。 (全体・5分)	○各自ががんばったことを振り返れるよう、よかった点を賞賛する。	○季節に合わせたたくさん名前を集めたか振り返らせ、シールを貼り賞賛する。	○ちらしに具体的に書けたか振り返らせ、シールを貼り賞賛する。	○ものの名前が書けたことを振り返らせ、シールを貼り賞賛する。
7 挨拶する (全体・3分)	○互いに元気に挨拶をする。			